

☆☆☆「6月学習会（第31回）」を開催 ☆☆☆

テーマ『宗義智と朝鮮通信使』 語り人・小出 雅利 氏

『全く初めて耳にする朝鮮通信使の言葉・講義内容でした。学校で習ったという記憶すら残っていません』という感想を、学習会后耳にしたが、聴講した「いきがいシニア 18名」もおそらく全員横並びの感想だったと推測する。ちなみに手持ちの歴史略年表を確認しても、1607年「朝鮮使節はじめて江戸に来る」との表記だけであった。

(江戸期朝鮮通信使は 12 回も訪日している史実あり)



語り人：小出雅利氏

今回のテーマ選定は、「朝鮮通信使に関する資料 333 点」が、2017 年 10 月 31 日に世界記憶（遺産）に登録された報道がきっかけとの事。しかもその内容は「江戸時代 200 年間、日朝関係は戦争もない平和な国交関係だった」、まさに「江戸時代の韓流」の代表だったという。本当かね～と言いたくなるが史実であった。我々シニアが若かりし頃学んだ日本史では、話題にされることなかった「朝鮮通信使」であったが、時代は変遷しているのだ。



朝鮮通信使行列図

それこそ、学習会の案内コピーにあった日朝交流の架け橋『朝鮮通信使』・・・皆さん、「朝鮮通信使」をご存じでしょうか？に尽きると思う。

さて、《宗義智と朝鮮通信使》のシナリオ構成は以下の通り。

- ① 朝鮮半島と日本（対馬）の歴史について
- ② 対馬藩主・宗義智の人物と外交努力とは（対馬の為にやむを得ずの外交テクニック～ 国書偽造や改ざんによって日朝国交回復を実現）
- ③ 江戸時代 200 年間続いた朝鮮通信使とは



今回は、まさに時宜を得た講義内容であった。何故ならば、現況の国内政治では「公文書改ざん問題」が未だ注目されているし、国際政治においては朝鮮半島問題が真っ盛り。6/12 注目の「トランプ・金正恩のシンガポール会談」もあった。その直後の 6/18(月) 午後が、6 月学習会日であったのだ。

秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）による日朝国交断絶、朝鮮貿易に頼っていた対馬藩は存亡の危機を迎えていた。藩主・宗義智は交易再開を急がねばならなかった。その為宗義智は、現在話題の「文書改ざん・忖度」の禁じ手をやむを得ず実行、日朝国交回復は実現した。この対馬藩の窮地からの必死な脱出姿勢があったればこそ続いた、その後 200 年間の日朝平和関係。結果オーライだったであろうこの外交秘策についてどう思うか…、が学習会の注目点といえよう。

NHK-BS 番組「英雄たちの選択」でとり上げた時の論評メンバー（各界の先生）は、宗義智の禁じ手選択を全員が支持していたという。…偽造・改ざんやむを得ず

同じく学習会語り人も、対馬藩存亡危機といった
《そうした中で起こった必要悪の『国書改ざん』である》
と締めくくっていた。

[筆者注]

必要悪=ない方が望ましいが、組織などの運営上また社会生活上
やむをえず必要とされる物事



筆者も『なるほど』と思った。宗義智は「公共の利益・対馬島民の生存」の為、対馬の藩主としてやむを得ぬ所業であったのだ。現在の政治家・お役人諸氏には、猛省を促したい。

(書人不知)

